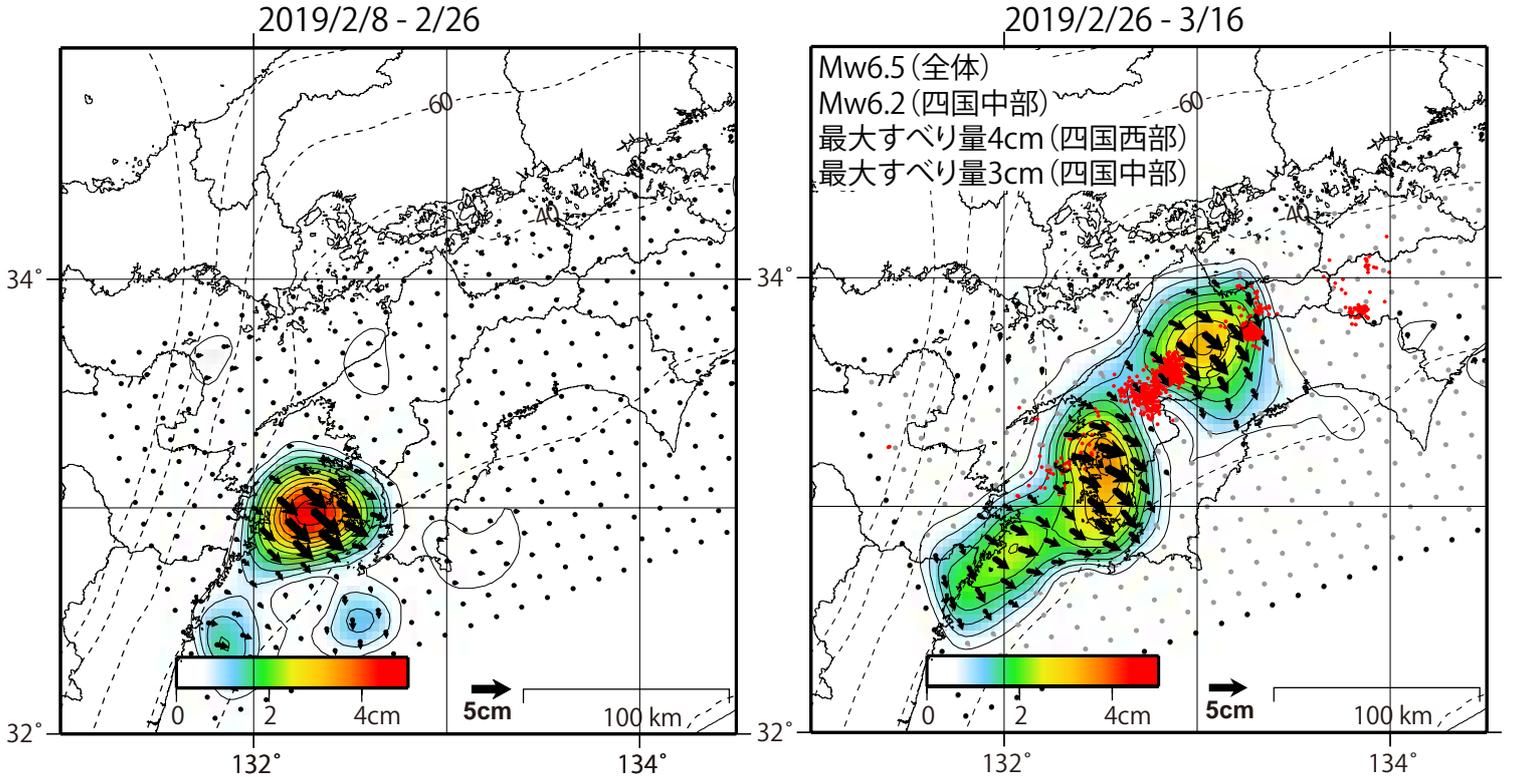
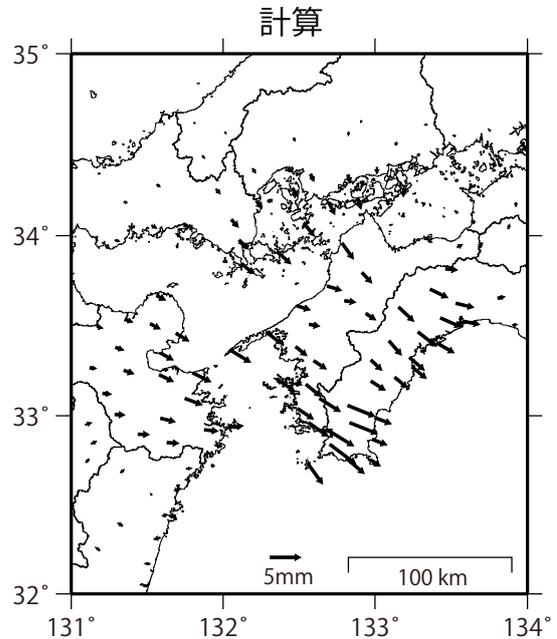
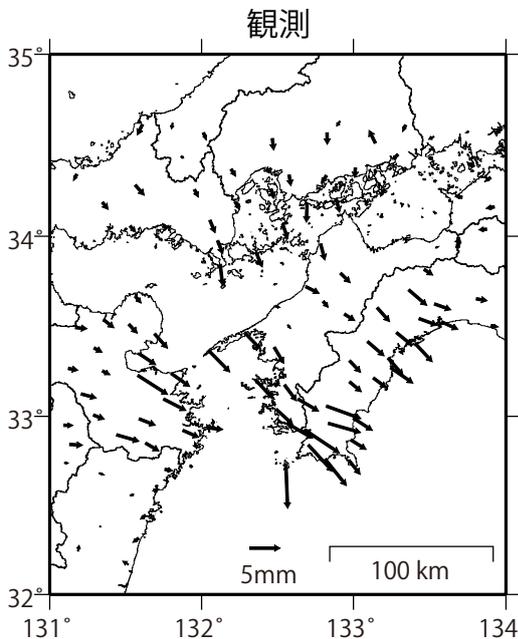


GNSSデータから推定された
四国地方の深部低周波微動と同期したスロースリップ(暫定)

推定すべり分布



推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍未満のグリッドを灰色で表示



解析に使用した全観測点の座標時系列から共通に含まれる時間変化成分を取り除き、2/16-2/26の平均と3/16-26の平均の差をとった値

解析に使用した観測点の範囲: 概ね北緯32~34.6°、東経131~134.8°
 データ: F3解(2019/2/10-3/16)+R3解(2019/3/17-3/30)
 トレンド期間: 2006/1/1-2009/1/1
 黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)
 赤丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)
 コンター間隔: 4mm
 固定局: 三隅

- ・ 四国中西部を活動域とする短期的スロースリップイベント (M_w 6.2)
- ・ 2018年9～10月 (M_w 6.1) 以来約5ヶ月ぶり

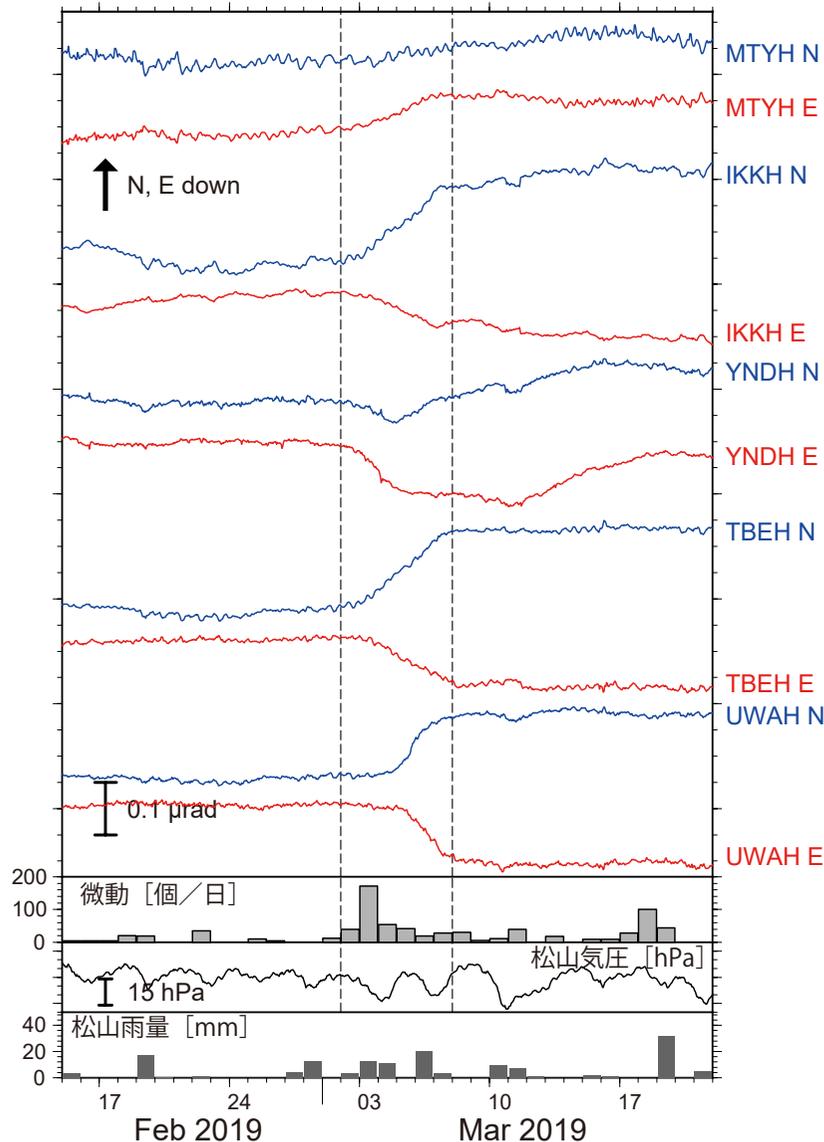


図1: 2019年2月15日～3月21日の傾斜時系列。上方方向への変化が北・東下がりの傾斜変動を表し、BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答成分を除去した。3月2日～7日の傾斜変化ベクトルを図2に示す。四国中西部での微動活動度・気象庁松山観測点の気圧・雨量をあわせて示す。

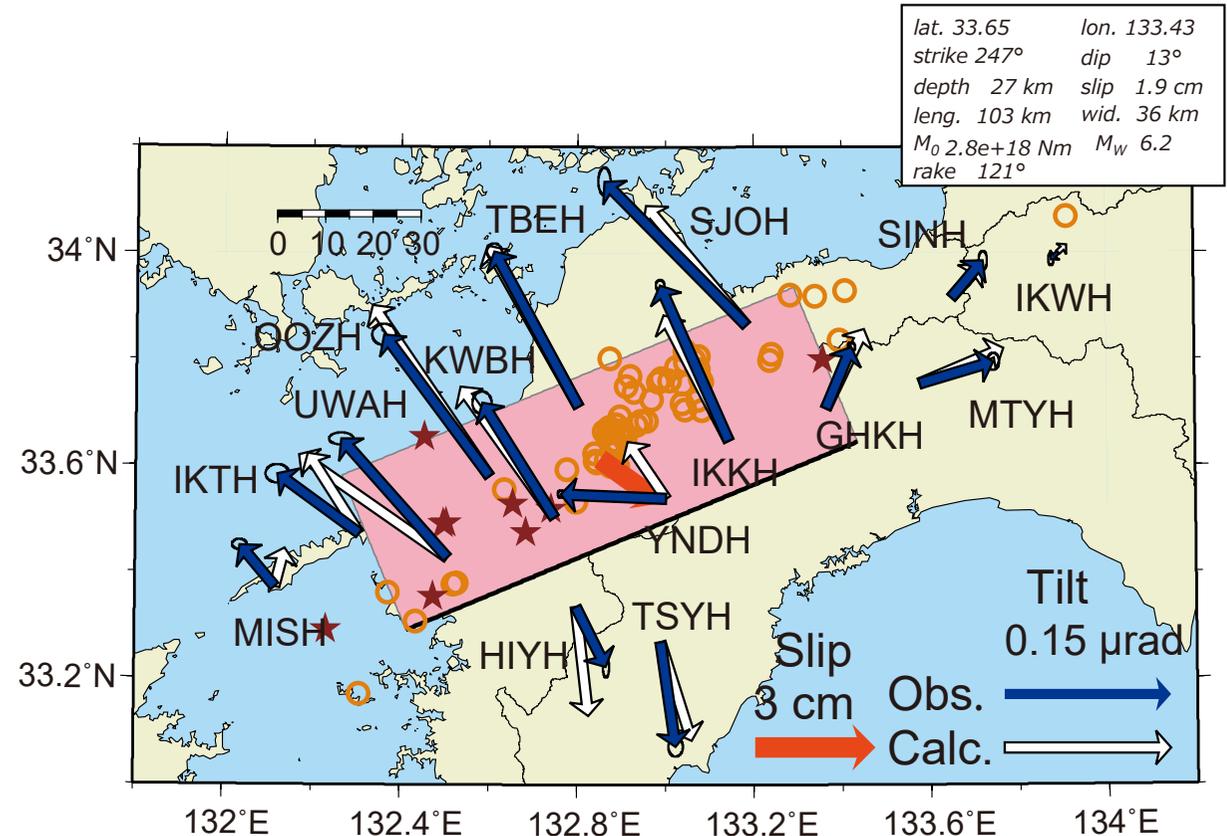


図2: 3月2日～7日に観測された傾斜変化ベクトル(青矢印), 推定されたスロースリップイベントの断層モデル(赤矩形・赤星印), モデルから計算される傾斜変化ベクトル(白抜き矢印)を示す。1時間ごとの微動エネルギーの重心位置(橙丸), 深部超低周波地震の震央(茶星印)もあわせて示す。すべり角はプレート相対運動方向に固定している。

謝辞

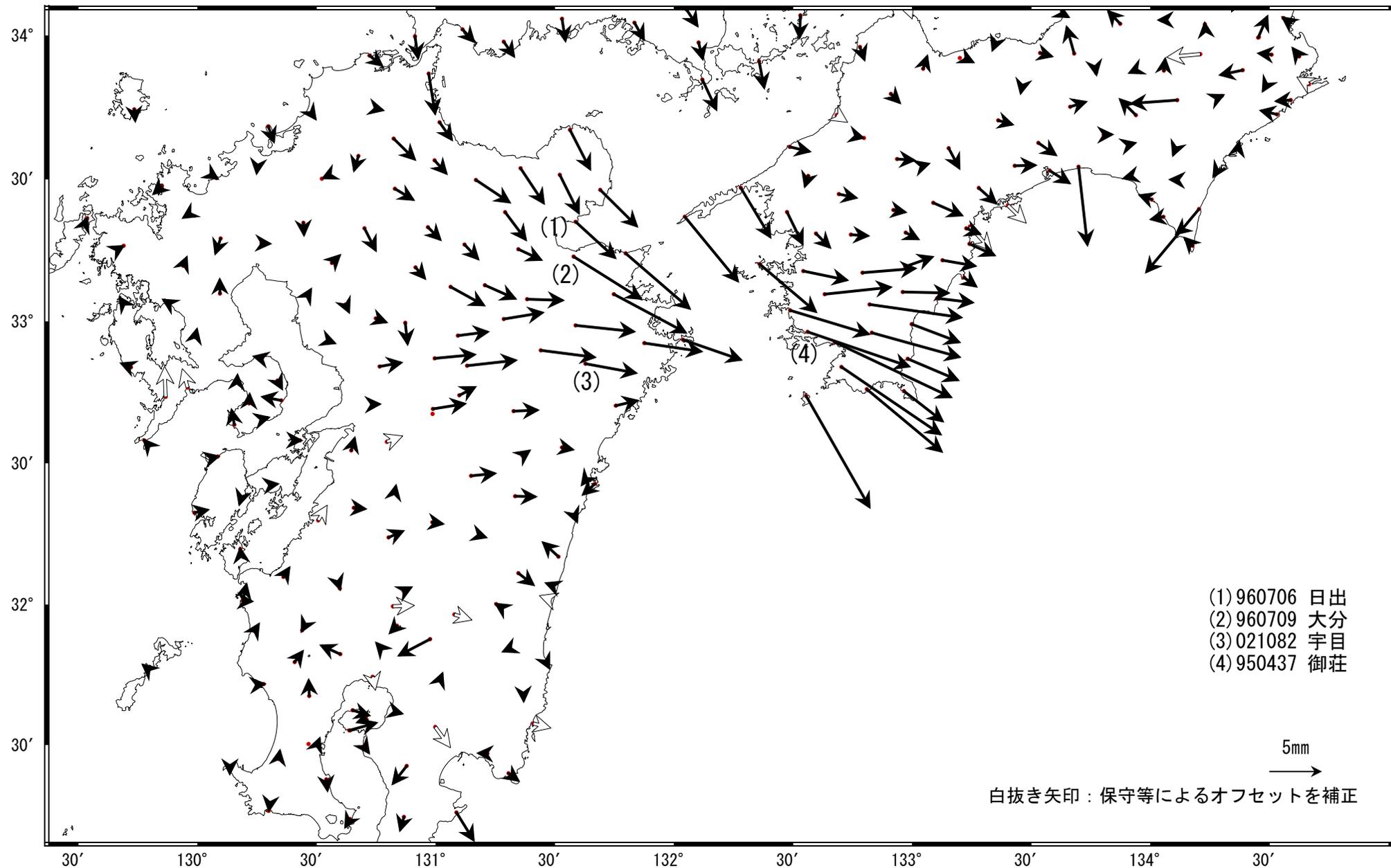
気象庁のWEBページで公開されている気象データを使用させて頂きました。記して感謝いたします。

九州北部・四国西部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間: 2019/01/29~2019/02/04 [F3: 最終解]

比較期間: 2019/03/15~2019/03/21 [R3: 速報解]

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



☆ 固定局: 福江 (950462)

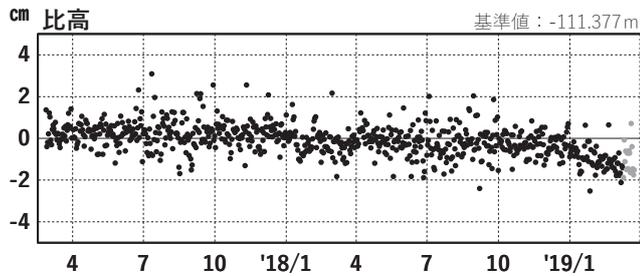
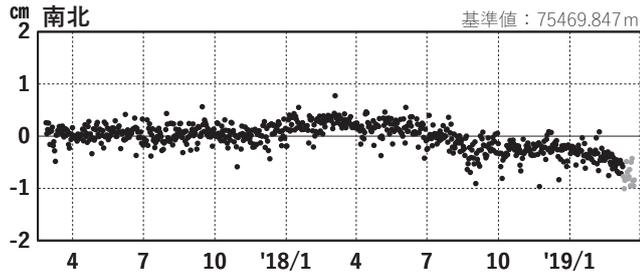
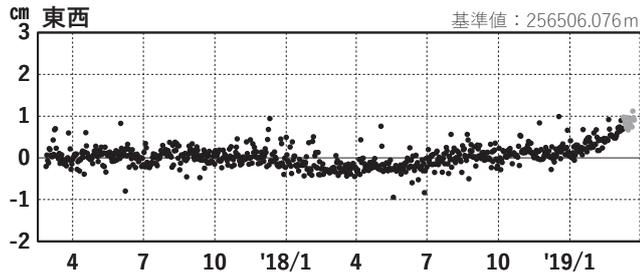
九州北部・四国西部 G N S S 連続観測時系列

1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

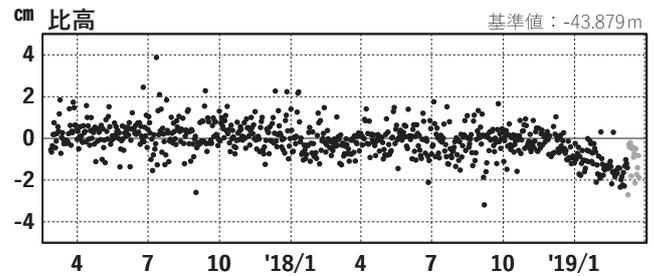
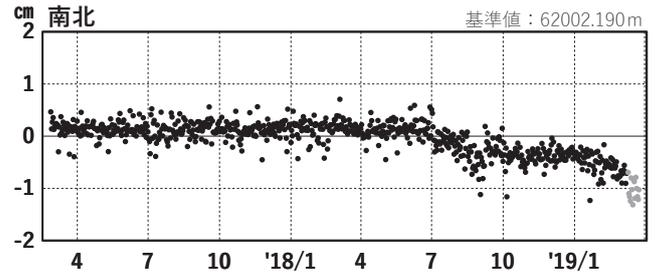
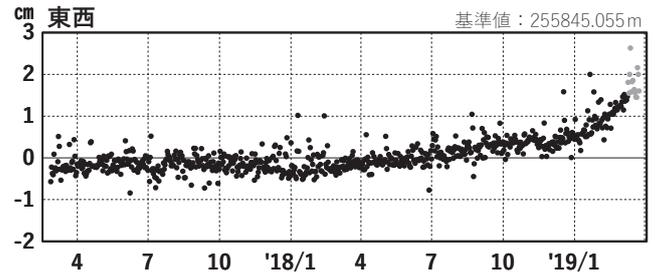
期間: 2017/02/25~2019/03/25 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

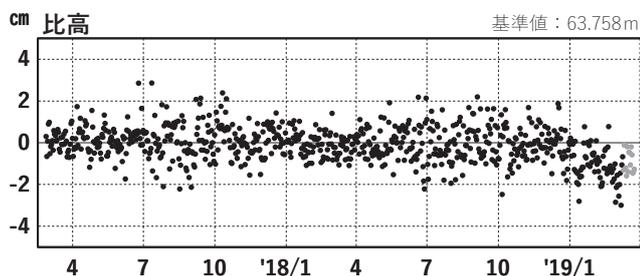
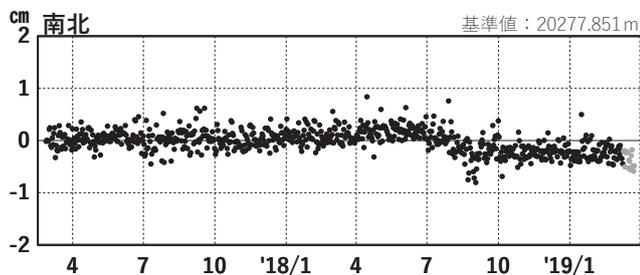
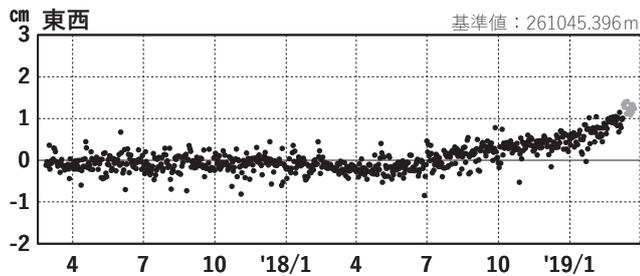
(1) 福江(950462)→日出(960706)



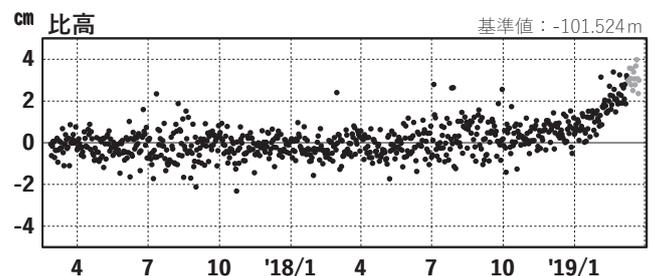
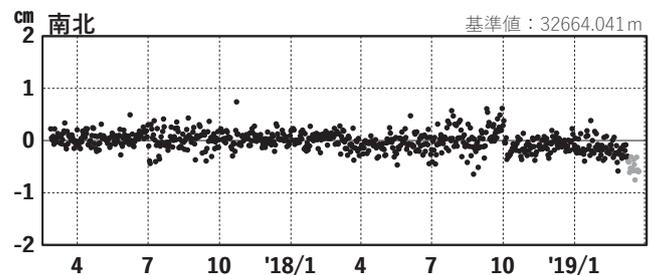
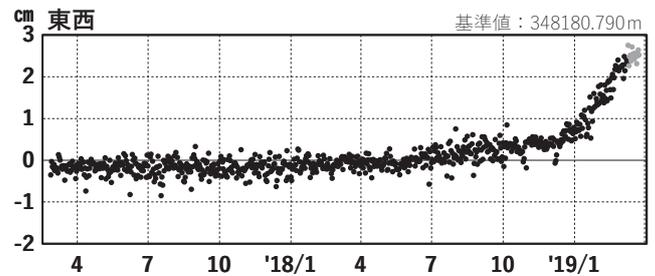
(2) 福江(950462)→大分(960709)



(3) 福江(950462)→宇目(021082)



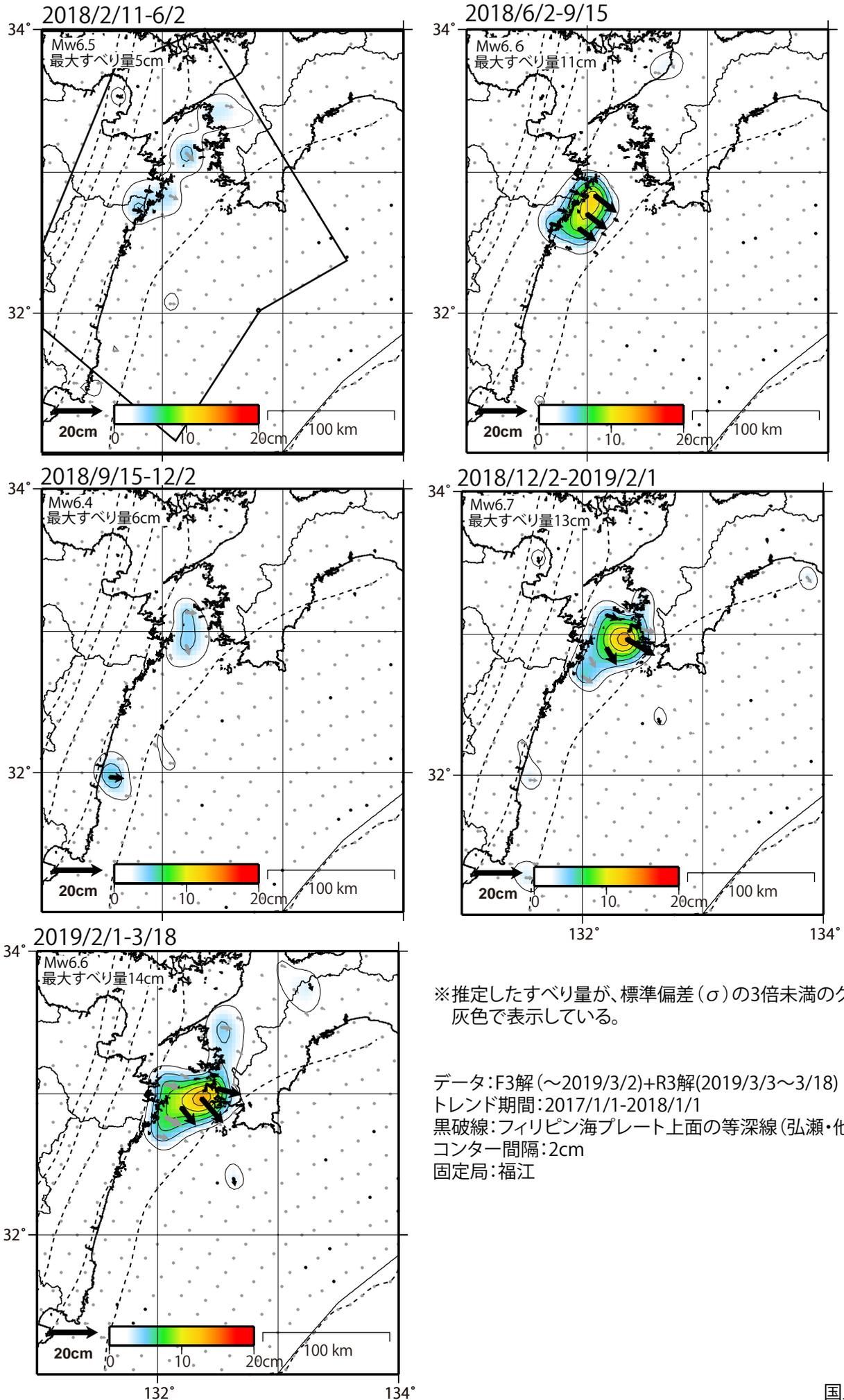
(4) 福江(950462)→御荘(950437)



●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

GNSSデータから推定された日向灘・豊後水道の長期的ゆっくりすべり(暫定)

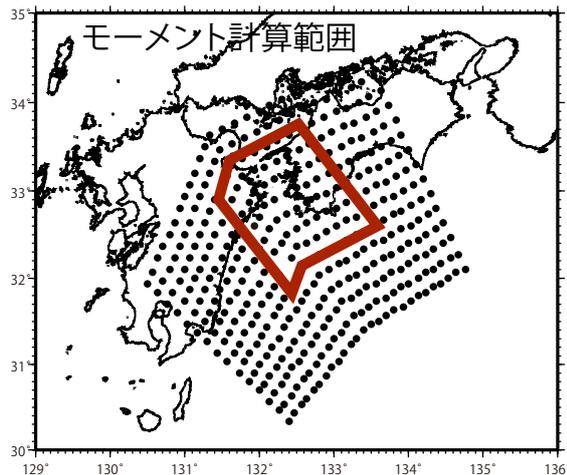
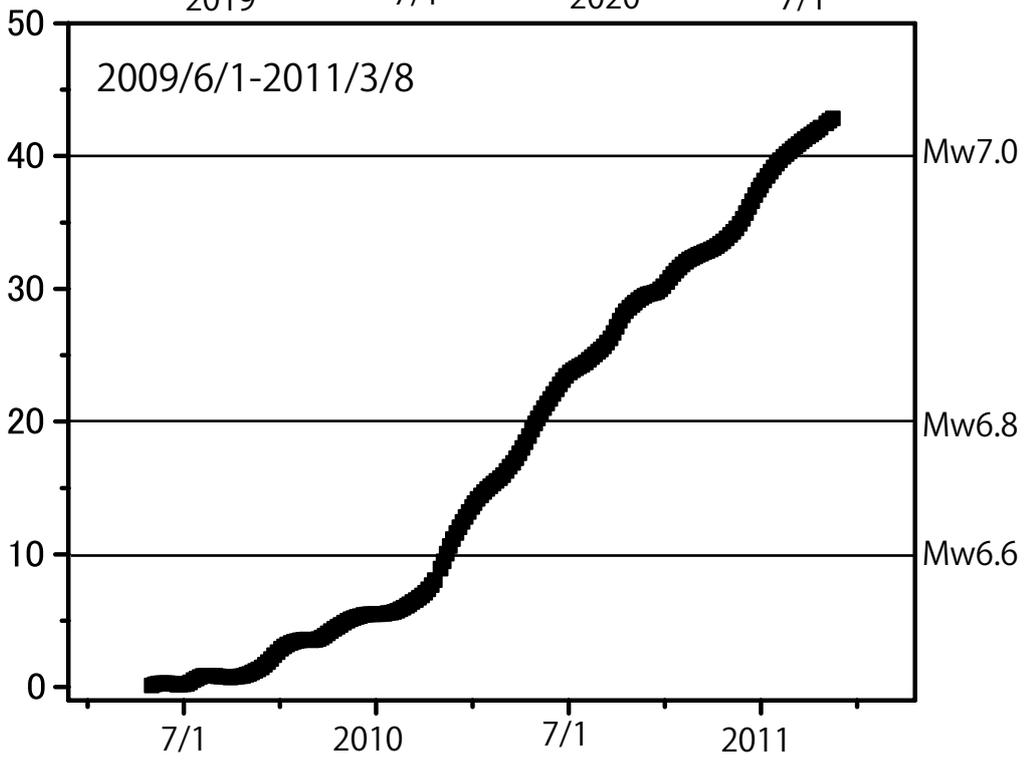
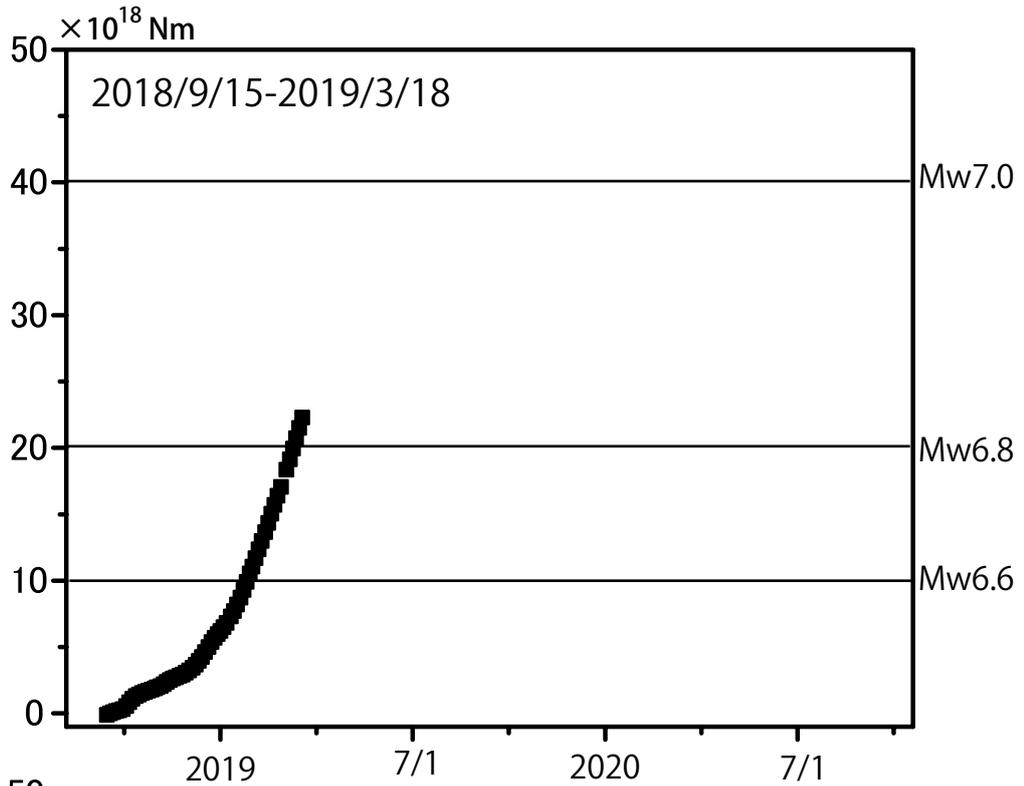
推定すべり分布



※推定したすべり量が、標準偏差(σ)の3倍未満のグリッドを灰色で表示している。

データ:F3解(~2019/3/2)+R3解(2019/3/3~3/18)
 トレンド期間:2017/1/1-2018/1/1
 黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)
 コンター間隔:2cm
 固定局:福江

モーメント^{*} 積算図(試算)



※モーメント
断層運動のエネルギーの目安となる量。
地震の場合のMw (モーメント・マグニチュード)
に換算できる。